

J-クレジット制度管理者御中

実績確認概要書

平成 29 年 2 月 27 日

審査機関名 ビューローベリタスジャパン株式会社

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	名古屋大学医学部附属病院における熱回収型ヒートポンプ等の導入による省エネ事業
プロジェクト番号	KC0025
排出削減事業者名	国立大学法人 名古屋大学
排出削減共同実施事業者名	三菱 UFJ リース株式会社
事業実施場所	名古屋大学医学部附属病院 (愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65)
事業の概要	本事業は中央診療棟、病棟、医系研究棟、エネルギーセンターの排熱回収型水冷チラーの導入、インバーターポンプの導入、ボイラーの更新により、エネルギー効率を改善することでエネルギー消費量及び CO2 排出量を削減する。
排出削減量の計画	2010~2012 年度 5,537tCO ₂ /年 2013 年度 5,328tCO ₂ 2014 年度 5,356tCO ₂ 2015 年度 5,457tCO ₂ 2016~2018 年度 5,270tCO ₂ /年 (事業実施期間合計 48,562tCO ₂)
クレジット 認証期間	開始日 2010 年 4 月 1 日 終了予定日 2018 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新 方法論番号 002 ヒートポンプの導入による熱源機器の更新 方法論番号 002-A ヒートポンプの導入による熱源機器の更新 (熱回収型ヒートポンプ)

	方法論番号 005 間欠運転制御、インバーター制御又は台数制御によるポンプ・ファン類可変能力制御機器の導入
--	---

2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日～2016年10月31日（第4回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	13,812tCO ₂ （2013年4月1日～2016年10月31日）
--------------	--

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じていること	<p>排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じていることを、以下のとおり確認した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 今回は4回目実績確認なので、当該確認は省略。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 本実績報告期間における都市ガス使用量、チラー電力使用量および熱量計計測値、更にポンプ電力使用量計測結果により設備稼働を確認している。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	<p>排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていることを確認した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) モニタリング方法の確認

	<p>承認排出削減事業計画書（および第一回目実績報告時点の変更届）のとおり、方法論及び承認排出削減計画に沿って、都市ガス使用量、電力量、熱量の実測値および空調設備稼働時間の把握により、モニタリングが実施されていることを確認した。</p> <p>2) 活動量の正確性 各事業の活動量の集計元である詳細な日次データを記録した月報の値と年間集計表の値を突合した上で、個々に集計対象の確認や検算を行うことにより、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画書通り、エネルギー使用量の記録・保管が適切になされており、正確に集計されていることを確認した。</p> <p>3) 単位発熱量、排出係数等の確認 承認排出削減事業計画通りのモニタリング対象指標がリストアップされ、使用されている単位発熱量と排出係数がJ-クレジット制度・モニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver2.6 によるデータであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 事業実施後排出量、ベースライン排出量、リーケージ排出量、排出削減量の算定結果をモニタリング結果と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。</p>
算定期間が移行期間内であること	本実績確認の対象期間は、2013年4月1日～2016年10月31日までであり、排出削減量を算定した期間が2018年3月31日を超えないことを確認している。

5. 承認排出削減事業からの重要な変更点についての評価（該当する場合）
特になし

6. 特記事項

確認した排出削減量に相当する省エネルギー量について、原油換算 6,367.8kl であること

を確認した（内訳：方法論 001：829.1kl、方法論 002：2,541.3kl、方法論 002-A：1,567.5kl、方法論 005：1,429.9kl）。